

令和元年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大和中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成31年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

中学校3年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- ・ 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

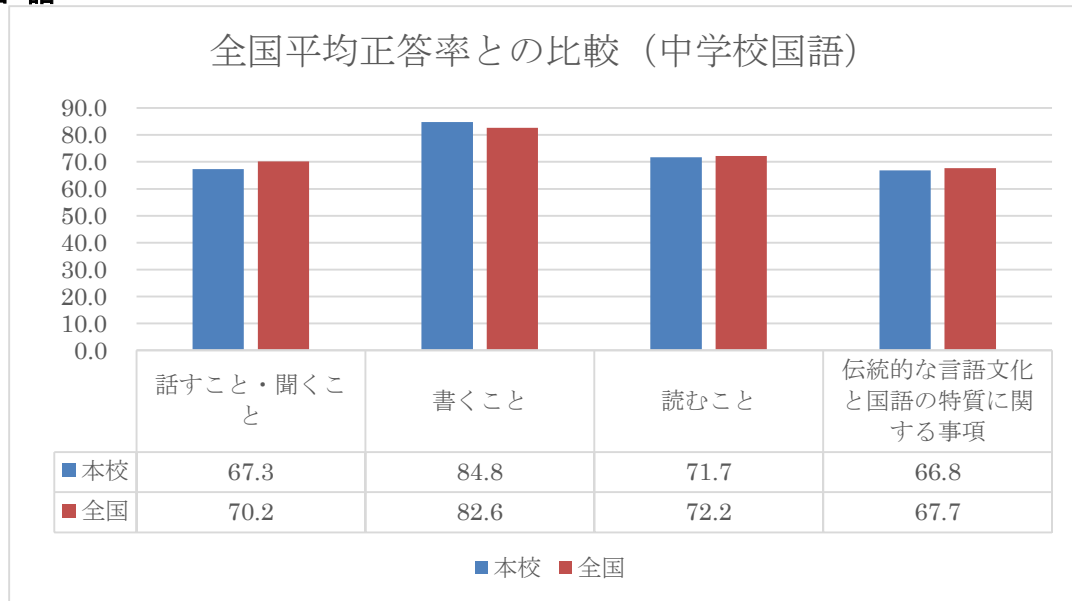
児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例)国語・英語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

「書くこと」を除く領域で、全国平均を下回る結果となった。全 10 問に対して、領域別にみると、「話すこと」(全国比マイナス 2.9 ポイント)、「書くこと」(全国比プラス 2.2 ポイント)、「読むこと」(全国比マイナス 0.5 ポイント)、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」(全国比マイナス 0.9 ポイント)と全国平均との差がある。また、10 問中の正答数について、正答数が 9・8 問の生徒の割合が全国より高かった一方で、正答数が 3 問の生徒の割合も全国より高かった。

(2) 成果と課題

- 無解答率（解答を記入しなかった生徒数の割合）が、すべての問題で全国平均を下回っていた。
- 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く問題について、本校正答率は全国正答率よりも大きく上回った。
- △話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをもつことに課題がある。全国正答率との差が開いていた。

(3) 学力向上のための取り組み

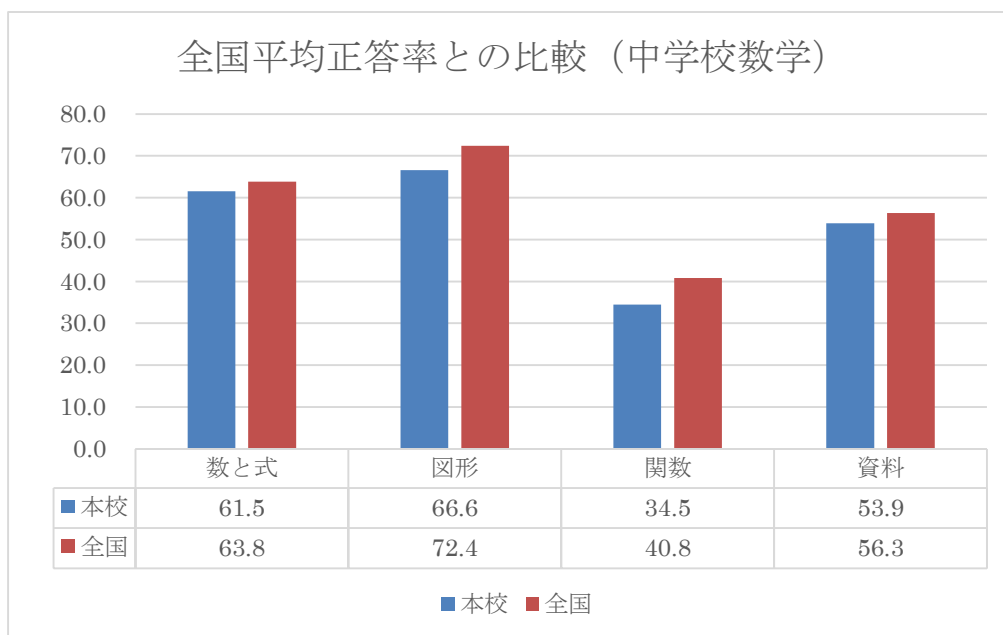
【学校では】

- 「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の力を高めるために、相互の指導を関連させ、話し合い活動を通して、聞いた情報を活用する力を付けていきたいと思えます。積極的な意見の交換ができるように授業を工夫します。
- 説明文を丁寧に読ませ、筆者の主旨だけでなく構成なども意識して考えさせます。

【ご家庭では】

- 無回答率が低く、最後まであきらめずに問題に取り組んだ姿勢がすばらしいと思えます。この姿勢を最後まで失わずに取り組ませたいと思えますので、今後ともご協力をお願いします。家庭学習の定着として以下の点に取り組みましょう。
- 予習として、教科書の文章を通読して、内容のあらましをつかんでおきましょう。声に出して読むとさらに内容が理解しやすくなります。
 - 復習として、漢字などはこまめに復習して覚えましょう。意味の分からない語句は辞書で調べましょう。

2 数学



(1) 結果

全領域で全国平均を下回る結果となった。全 16 問に対して、全国平均正答数が 9.6 問に対して本校平均正答数が 8.7 問であり、平均正答数については全国平均を下回っていたものの大きな差はなかった。領域別にみると、図形領域（全国比マイナス 5.8 ポイント）、関数領域（全国比マイナス 6.3 ポイント）と全国平均との差があるが、出題数がそれぞれ 4 問（図形）、3 問（関数）と少なかったため、差が開いたものと思われる。また、16 問中の正答数について、正答数が 13 問以上の生徒の割合が全国より低かったのに対して、正答数が 4 問以下の生徒の割合が全国より高かった。

(2) 成果と課題

- 無解答率（解答を記入しなかった生徒数の割合）が、ほぼすべての問題で全国平均を下回っていた。
- 表やグラフのデータを分析して、その傾向を判断する（説明されたことが正しいかどうかを判断することができる）問題について、本校正答率は全国正答率よりも大きく上回った。
- △「反例」など、授業で取り扱う頻度が低い言葉が問題にできた場合、全国正答率との差が開いていた。

(3) 学力向上のための取り組み

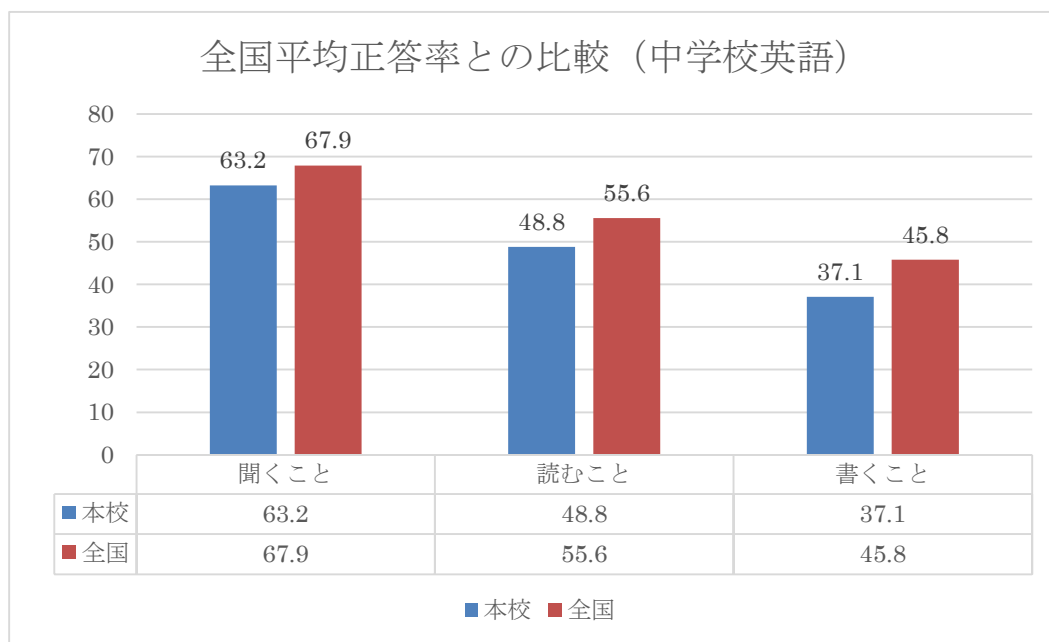
【学校では】

- 「基礎的な問題」をすべての生徒ができるようにするために、反復練習に取り組みます。また、必要に応じて個別指導を行います。
- 定期的に過去に学習した内容の復習を行い、これまでに学習した知識や技能の確認および定着を図ります。

【ご家庭では】

- お子さんとご家庭で「学校での学習」や「家庭で取り組む課題」について会話の機会をつくってください。そのとき「できていないことを責める」のではなく、「できたことを褒める」ことや「励ます」など、お子さんのモチベーションを高めるようお願いします。
- お子さんのノートや、授業中に配付されたワークシートに目を通してください。取り組みの状況や、文字の丁寧さなどから授業中の学習の様子がわかります。そのときも「責める」ではなく「褒める」「励ます」ことを中心にお願いします。

3 英語



(1) 結果

- ・3つの領域において、全国平均を下回っている。
- ・英語を「書くこと」の領域が他の領域よりも、全国平均が下がっている。

(2) 成果と課題

- ・英語を「聞くこと」については聞いて把握した内容について、適切に応じるということがほとんどできていないが、その一方で、7つの設問中4つが佐賀県平均を超えておいる。
- ・英語で書かれた文章を正確に読み取ることを苦手としている生徒が多い。
- ・書かれた内容に対して、自分の考えを示すことができるように、話の内容や書き手の意見などをとらえることがうまくできない。
- ・与えられた情報に基づいて、あることを説明する英文を書くことについては、佐賀県平均を超えているものと超えていないものがある。
- ・今回行われた英語で「話すこと」については、全国平均を超えた。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 英語を聞いて把握した内容について適切に応じる活動を積極的に授業に取り入れます。
- 英語で書かれた文章を正確に読み取るような読解練習を取り入れます。
- 自分の考えを示すために、話の内容や書き手の意見などを捉える練習を取り入れます。
- 与えられた情報に基づいて、あることを説明する英文を書く練習を行います。
- パソコン教室が使えるときに、ICTの利活用を積極的に行い、話すことへの練習にも積極的に取り組みます。

【ご家庭では】

- 身のまわりにあふれている英語や単語に少しでも興味が持てるよう、ご家庭での声かけをお願いします。英語は私たちのまわりにある身近な言葉だと感じてくれたら嬉しく思います。
- 諸外国の映画や音楽等を、観たり聴いたりすることでも、英語への興味関心は高まります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果 (% = 「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合)

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	94.9	93.1
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	82.2	78.0
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	95.9	92.8
家の人（兄弟姉妹を除く）と学校の出来事について話をしますか。	75.5	76.4
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	80.6	70.3
学校の規則を守っていますか。	97.5	96.2
人が困っているときは、進んで助けていますか。	93.9	85.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	96.9	95.1

ご家庭の協力のもと、朝食・起床・就寝については全国平均を上回り、規則正しい生活のリズムが身に付いています。その結果、大変落ち着いた学校生活が送れ、さまざまな行事や活動に意欲的に取り組んでいます。また、挑戦心や規範意識についても大きく全国平均を上回っている項目もあり、良好な結果ができています。今後も継続した取り組みで、さまざまな場面でさらなる活躍が期待できます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校 %	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	53.1	50.4
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。 「3時間以上」	5.6	9.9
「2時間以上、3時間より少ない」	13.3	25.6
「1時間以上、2時間より少ない」	46.9	34.3
「30分以上、1時間より少ない」	25.0	17.2
「30分より少ない」	7.1	8.4
「全くしない」	2.0	4.4

自分で計画を立てて学習に取り組める生徒が、全国平均を上回り、家庭での学習習慣が身に付いている生徒が多い結果となっています。しかし、平日2時間以上学習に取り組んでいる生徒は、全国平均が35.5%に対して、本校は18.9%と、全国平均を大きく下回っています。また、平日の学習時間が1時間未満の生徒が35%と高い割合となっており、学習時間が不足している生徒が多い現状がみられます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 定期的な生活アンケートや教育相談を実施することで、生徒の学校生活を把握し、家庭と連携を図りながら、不安感や困り感の解消に努めていきます。
- 「大和協力」のスローガンのもと、学校行事や学級・学年活動などを計画的に実施し、自他を大切に、互いに認め合う取り組みを通して、自己肯定感を高めていきます。
- 授業では、めあてや授業の流れを提示し、全ての生徒がわかる喜びを感じる授業実践に取り組めます。また、立腰指導をはじめ、授業における学習規律の確立にも努めます。

【ご家庭では】

- 家庭での規則正しい生活は、学校生活の全てにおいての基本となります。今後とも、規則正しい生活を送ることにご協力ください。
- 学習面においては、家庭学習の時間の確保に努めてください。ゲームやテレビだけでなく、パソコンやスマートフォンなど、携帯端末を扱う時間が長いと、家庭学習の時間は短くなります。積極的に子どもたちへの声かけ等をお願いします。